

教育哲学会 第66回大会 プログラム



2023年10月7日(土)・8日(日)
九州大学伊都キャンパス(イーストゾーン)

大会日程

第1日 10月7日(土)

9:00～	受付
9:30～12:00 (第四部会のみ～12:25)	一般研究発表(第一部会～第四部会)
12:10～13:10	全国編集委員会(編集委員のみ)
13:15～14:15	総会・奨励賞授賞式
14:30～17:30	研究討議
～20:00	懇親会

第2日 10月8日(日)

8:30～	受付
9:00～11:30	一般研究発表(第五部会～第八部会)
11:40～12:50	次世代育成企画
13:00～15:30	課題研究
15:50～17:50	ラウンドテーブル

大会前日

14:30～15:30	監査(関係者のみ)	(赤煉瓦文化館会議室3)
16:00～18:00	全国理事会(関係者のみ)	(赤煉瓦文化館会議室3)

参加要領

参加申し込み 当日参加申し込みも受け付けますが、10月1日(日)までに大会サイトより事前参加申し込みをいただいた場合、名札や領収書等を印刷して受付にご準備いたします。受付での混雑緩和のため、できる限り事前にお申し込みください。

受付 イースト1号館1階北側入り口(14・15ページの地図をご参照ください)

大会参加費 一般会員 3,000円、学生・当日会員 2,000円

懇親会参加費 有職者 4,000円、学生・非有職者 2,000円

一般研究発表にあたって 発表20分/質疑応答5分
※万一発表を取りやめる場合、発表者は速やかに大会準備委員会(下記メールアドレス)までご連絡ください。なお、欠席者が出た場合にも、発表時間の繰り上げは行いません。

大会準備委員会メールアドレス
大会サイト(ホームページ)

pesj66.2023@gmail.com
<https://pesj66.wixsite.com/home>

大会サイトへ



参加要領

資料等の配布について

本大会では、昨年度の大会に倣い、会場での資料配布を行いません。発表者から事前にご提出いただいた資料は、事前にオンラインストレージにアップロードし、PDF形式でのダウンロードを可能とする予定です。（詳細は次ページをご覧ください。）

なお、会場では配布資料のダウンロードのためのWiFi環境を整える予定です。資料閲覧のための機器は各自でご持参ください。

WiFiの利用について

会場内ではEduroamがご利用いただけます。（ご利用のためには事前にご所属機関でのご登録が必要です。）

※詳しくはhttps://www.eduroam.jp/for_usersをご覧ください。

また、Eduroamを利用できない方のためにレンタルWiFiを設置し、配布資料のダウンロードが可能な環境を整える予定です。（パスワードは各会場に掲示予定。）

ただし、アクセスが集中した際に接続が不安定化する恐れがありますので、レンタルWiFiでは重たいデータの常時送受信はお控えください。

昼食について

昼食時はイーストゾーン内の食堂が営業予定と当初、ホームページでお知らせしておりましたが、昼食時の営業がとりやめとなりました。代わりに10月1日(日)までホームページ上でお弁当の注文を受け付ける予定です。ぜひ、そちらをご利用ください。なお、土日はイーストゾーン内のショップ営業がないため、ご注意ください。

コンビニ・飲食店について

イーストゾーンから最寄りのコンビニエンスストアまでは、徒歩で10～15分ほどかかります（センターゾーンにセブンイレブンが1店、キャンパス外にファミリーマートが1店ございます）。

また、周辺にある飲食店はごくわずかです。ご注意ください。

託児室について

就学前のお子様をお連れの方には、学外の保育所等の「一時預かり」等をご利用いただきたく存じます。以下、福岡市の「一時預かり事業」ならびに最寄りの施設の情報をお示しいたします（7/11時点）。（お問い合わせは各自でお願いいたします。）

・福岡市HP（「福岡市 一時預かり事業」で検索してください）

・プティット西都ルーム（<https://petit-fukushige.com/>）

（TEL 092-805-1158、福岡市西区西都 1-6-14-202）

※日曜日は営業していないようです。ご注意ください。

お子様の勉強室について

小学校就学年齢以上のお子様をお連れの方のために、大会会場と同一の建物内に勉強室を開設いたします。スペースに限りがございますので、ご利用希望の方は、準備・実行委員会

pesj66.2023@gmail.com までお問い合わせください。

（先着順のご対応とさせていただきます。）

感染症対策について 新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日より「5類感染症」となったことを受け、今大会では感染症対策を各自の判断にゆだねた上、参加者には建物に入場する際の手指の消毒、こまめな手洗い、消毒をお願いいたします。また、会場ではできる限り相互に距離を取れるようにし、適宜、換気を行うよう努めます。

喫煙所について 九州大学はキャンパス内全面禁煙のため、キャンパス内に喫煙所がありません。お手数ですが、必要な場合にはキャンパス外でのご喫煙をお願いいたします。

発表要旨集録・発表資料の配布（ダウンロード）方法について

発表要旨集録 今回の大会では前大会同様、発表要旨集録の印刷配布はせず、電子版のみで配布を予定しています。

発表資料 各発表者の発表資料に関しても今回の大会では会場での紙媒体での配布は行わず、電子版のみで配布することとさせていただきます。

資料のダウンロードは大会サイト（ホームページ）から行うことができます。

総会資料 総会の資料に関しても、今回の大会では電子版の配布を検討しておりますが、詳しいダウンロード方法については会場にてご案内いたします。

参加者専用ページ閲覧用パスワードは、学会会員宛に郵送にてお送りしているプログラムと、学会事務局からのメールに添付したPDFプログラムに掲載しております。当日会員の方には受付でお知らせします。

懇親会

10月7日（土）研究討議終了後～20時

懇親会の開催 今回は学会大会として4年ぶりに懇親会を開催する予定です。全国各地からご参加をいただく方々に旧交を温めていただくとともに、この間に教育哲学の分野に新たに加わられた新会員・当日会員とも新たな交流を生み出す場としてぜひご利用ください。第1日の一般研究発表や研究討議の場では語りつくせなかった様々な議論、あるいはそれらから触発された新たな着想の共有、そして第2日の一般研究発表や次世代育成企画、課題研究やラウンドテーブルの予告やそれらに向けた事前質問など、学会大会の懇親会でしか行うことのできない参加者相互の交流を心ゆくまで行っていただければ願っております。

なお、参加者のみなさまの交流がさらに円滑なものとなるよう、九州に縁のある料理の数々に加え、九州産の日本酒、焼酎、そしてフランス・ドイツの赤・白ワインなどを揃えて、ご参加をお待ちいたしております。

イースト1号館 E-A-105

第一部会 教育における「共同的なるもの」

司会：市川秀之（千葉大学）、矢田訓子（東京音楽大学）

- 09:30 「政治・哲学における相対主義を克服する共同性に関する一考察」
山木 成（大阪公立大学・院生）
- 09:55 「もうひとつの共同体」をめぐる思想がもつ教育哲学的射程
—E・レヴィナスとA・リンギスの比較から—
加藤 里奈（京都大学・院生）
- 10:20 アイルランド高等教育史における J.H. ニューマンの教育実践の意義：
アイルランド・カトリック大学の宗教教育の位置づけに着目して
青木 由紀子（上智大学・院生）
- 10:45 熟議的民主教育論の課題と可能性
鶴海 未祐子（駿河台大学）
- 11:10 解放の教育学における規範と批判の隘路—J. ランシエールを手がかりに
田中 智輝（山口大学）・村松 灯（帝京大学）
※個人発表扱い
- 11:35 全体討議（～12:00）

イースト1号館 E-A-117

第二部会 フランス・ドイツの教育思想

司会：吉野敦（大分大学）、藤井佳世（横浜国立大学）

- 09:30 想像力の馴致：ピュフォン「第一論説」における教育指南の内在的解釈の試み
杉山 大幹（常磐大学）
- 09:55 ルソーの教育思想——人間形成と市民形成の関係をめぐって
落合 隆（玉川大学・院生）
- 10:20 ルソーの自然宗教観：『エミール』における宗教教育をめぐって
福永 暁斗（九州大学・院生）
- 10:45 グスタフ・ヴィネケンの教育思想—男女共学論とその失敗を手がかりに—
寒河江 陽（慶応義塾大学・院生）
- 11:10 ベンヤミン翻訳論の教育学の意義について：
青年運動期における母語とナショナリズムに関する考察を背景に
浅井 健介（奈良教育大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

イースト1号館 E-A-118

第三部会 日本における教育思想の展開

司会：門前斐紀（金沢星稷大学）、山田真由美（北海道教育大学）

- 09:30 高坂正顕の戦前・戦中・戦後期における「世界」
中村 優（東京大学・院生）
- 09:55 近代日中におけるデューイ思想の受容と展開に関する考察
—谷本富と胡適の理論・実践の比較を通して—
任 雅楠（大谷大学・学習支援アドバイザー）
- 10:20 贈与の「力」の解明を試みて—柄谷行人の交換様式論を手がかりに—
XING SHUYU（京都大学・院生）
- 10:45 空海の三密修行における真言と身体性
藤林 優徳（名古屋大学・院生）
- 11:10 超越論的主観性の仏教的解釈—現象学的教育データサイエンスに向けて—
田端 健人（宮城教育大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

イースト1号館 E-B-112

第四部会 社会の変化と教育哲学

司会：梶川萌（尚絅学院大学）、岸本智典（鶴見大学）

- 09:30 教師の感情労働の商品性と手段性に関する教職倫理的考察
中島 理志（広島大学・院生）
- 09:55 デューイのオキュペーションにおける活動の直接性・身体性の意味
—ICTによる学びの変容を問うために—
朝倉 愛里（立命館大学・院生）
- 10:20 プラグマティズムはメディアをどのように理解するか？
—ジェイムズ・W・ケアリーの社会思想からの考察—
高田 正哉（会津大学短期大学部）
- 10:45 管理システムがもたらす主体像に関する批判的考察：子どもの消極的自由に焦点を当てて
高須 明根（広島大学・院生）
- 11:10 ポスト戦後教育学の政治性再考
曾我部 和馬（神田外語大学）
- 11:35 ポピュリズムに抗する教育に関する批判的考察
山中 翔（広島文化学園大学）
- 12:00 全体討議（～12:25）

イースト1号館 E-A-105

第五部会 英米哲学と教育思想

司会：齋藤直子（京都大学）、渡邊福太郎（慶應義塾大学）

- 09:00 ホワイトヘッドの教育論に関する研究の現状と課題
藤原 翔（広島大学・院生）
- 09:25 A・N・ホワイトヘッドの後期思想における教育思想：『観念の冒険』を中心に
小島 聖矢（名古屋大学・院生）
- 09:50 リベラル・エデュケーションの系譜におけるスタンディッシュ
-humilityの徳に着目して-
竹本 晋也（兵庫教育大学・院生／西脇市教育委員会）
- 10:15 徳・理性・自然をめぐる現代英米教育哲学の議論を問い直す
—ウィリアムズの行為論とアリストテレス解釈を手がかりに—
古館 充斗（東京大学・院生）
- 10:40 デイヴィッド・アーチャードの私的領域概念をめぐる思想的展開
—養育・教育における公私区分論の問い直しに向けて—
石鍋 杏樹（筑波大学・院生）
- 11:05 全体討議（～11:30）

イースト1号館 E-A-117

第六部会 哲学することと教えること

司会：上地完治（琉球大学）、高橋舞（文京学院大学）

- 09:00 ガート・ピースタ「中断の教育学」に関する一考察
本多 泰之（大阪府立大学・院生）
- 09:25 子どものための哲学における参加する主体
—クリティカルなポストヒューマニズムに着目して—
後藤 美乃理（東京大学・院生）
- 09:50 哲学教育は知的に公正でありうるか：
哲学の西洋中心主義批判に対する「解放的徳」という観点からの応答
板野 誠（広島大学・院生）
- 10:15 哲学と教育—プラトン『ポリテイア』における洞窟の比喩の解釈をめぐって
酒井 健太朗（環太平洋大学）
- 10:40 全体討議（～11:00）

イースト1号館 E-A-118

第七部会 言語活動と身体性

司会：安喰勇平（神戸市外国語大学）、宮崎康子（広島修道大学）

- 09:00 ジャン＝リュック・ナンシー『声の分有』とその教育学的射程
—吟唱詩人イオンの「ヘルメーネイア」を手がかりに—
山本 源大（京都大学・院生）
- 09:25 ユージン・ジェンドリンの普遍性の原理 IOFI における再帰性の教育的意義
—ジョン・デューイの「示唆」の出現に着目して—
古井戸 祐樹（早稲田大学・院生）
- 09:50 ドゥルーズにおける「倒錯者」—変容を誘発する存在に着目して—
瑞慶覧 洸太（東京大学・院生）
- 10:15 素振りとしての抵抗—ジョルジョ・アガンベンにおける「身振り」概念の射程
寺道 亮信（東京大学・院生）
- 10:40 歴史をつくりつつ歴史学をする：リクールの歴史論と教員の歴史的アクチュアリティ
朝岡 翔（平安女学院大学）
- 11:05 全体討議（～11:30）

イースト1号館 E-B-112

第八部会 「子ども」の時間と空間

司会：池田華子（大阪公立大学）、大塚類（東京大学）

- 09:00 理想の人生における教育とは何か——Suits のゲームプレイ論における教育の発掘
日向 悠太（立教大学・院生）
- 09:25 E. H. エリクソンにおける「相互性」概念の再検討
—児童分析における「遊び」の身体空間論に着目して—
濱本 潤毅（東京大学・院生）
- 09:50 N. ノディングスのニーズ論の教育学的含意
坂本 達也（広島大学・院生）
- 10:15 子どもの時熟—ハイデガー時間論から教育人間学へ
森 七恵（京都精華大学）
- 10:40 語り (narrative) と回復力 (resilience) について
—アーレントの出生性 (natality) の概念を手がかりに—
藤井 奈津子（梅花女子大学）
- 11:05 全体討議（～11:30）

14:30~17:30 イーストゾーン 大講義室II

ヒトから教育を問う

登壇者	橋彌 和秀 (九州大学: 発達心理学)
	尾崎 博美 (東洋英和女学院大学)
	渋谷 亮 (龍谷大学)
指定討論者	平田 仁胤 (岡山大学)
司会	広瀬 悠三 (京都大学)
	藤田 雄飛 (九州大学)

イマヌエル・カントが「人間とは教育されなければならない唯一の被造物である」と述べた時代から200年以上の時を経て、現代に生きる私たちにとって、人間が教育を要する存在であることはもはや自明のものとなっている。「ホモ・エドゥカンドゥス」とも呼ばれるこの人間観は、人間のあり方を「教育される」という客体性によって裏付けながら、その後の時代を彩る様々な制度や文化や観念の基底にあり続けたと言える。

しかしながら、現代の生物学や進化心理学の諸知見は、人間のあり方をむしろ「教育する」という側面から問い直しつつある。生物学的には、広範な生物種において観察可能な現象である学習に対して、「教えること」は限られた生物種においてしか見られず、なかでも人間はこの「教えること」を通して、社会を維持し、文化を創造し継承してきた特異な種である。進化心理学が明らかにしてきたヒトの認知システムにおける特徴(志向性の共有)や協働への傾向性、そしてそれらを支えている「わたしたち性」(we-ness)は、人間が社会的環境のなかで規範を学び、価値を内面化し、文化を継承していく基盤を明らかにしてきたと言える。

本研究討議では、こうした現代の人間諸科学と教育学との対話を通して、あらためて教育と人間との関係について、そして「教育なるもの」について解きほぐしてみたい。「人間」という視点ではなく、「歴史を積み上げてきたヒト」という視点から問い直すとき、私たちにとって教育はいかなる営為として映るのだろうか? こうした作業は私たちの人間文化や人間社会の独自性を問い直す作業ともなるであろう。

11:40~12:50 イーストゾーン E-A-117

教育哲学的な問いとは何か

登壇者 佐藤 邦政 (茨城大学)
室井 麗子 (岩手大学)
山名 淳 (東京大学)

近年の『教育哲学研究』では、投稿数の増加がみられる一方で採択率の低下が課題の一つとなっている。また、研究職としてのポストを得るためには査読付きの業績を積み重ねることが必須の条件となっており、次世代育成企画として学術誌の「査読」をテーマにした内容を求める声は継続して寄せられている。

ここで、次世代育成企画委員会に対して（ひいては学会に対して）参加者から提出される「査読を通るためには」という問いは、掲載されるためのハウツーの要求に還元されるものでない。むしろそこには、世代を通して共有される教育哲学における「問い」とは何かという問題意識があり、それを継承・更新する場や機会の必要性が示唆されている。あるいは、こうした声の継続的な高まりは、「教育哲学的な問い」なるものの土壌を育んできた共通の対話の場や継承の機会が、近年に失われつつあることの顕れであるのかもしれない。さらには、それは失われた共通土壌の再興を願うだけでなく、新たな土壌形成の仕組みの生成を求める声であるともいえよう。

そこで、今年度の次世代育成企画では、問いや研究が「教育哲学的」であるとはどういうことか、そうした「教育哲学的な問い」はどのように作られてきた（いる）のかを問い・共有する機会を提供する機会を目指す。報告者に、『教育哲学研究』をはじめとする学会誌の編集委員会経験者をお迎えし、国際的な視点も交えて、学術誌が提供する「教育哲学的な問い」の在り方やその伝え方について、それぞれの専門領域やご経験から提案をいただく。

今回の企画は、ランチタイムセッションであり、ざっくばらんな雰囲気の中での質疑応答を目指したい。また、本企画では、多くの会員からご意見をいただくことを目的として、事前にオンラインでの質問収集を予定している（詳細は大会HP等をご参照いただきたい）。

会員の皆様の多くのご参加を願うものである。

13:00~15:30 イーストゾーン 大講義室Ⅱ

「教育」をいかに構想するか — 『教育哲学事典』の刊行を踏まえて—

司会	今井 康雄(日本女子大学) 上野 正道(上智大学)
報告者	岡部 美香(大阪大学) 田中 智志(東京大学) 三澤 紘一郎(群馬大学)

2019年に着手された『教育哲学事典』は、多くの教育哲学会会員の協力を得て、本年7月に丸善出版より刊行の運びとなった。本事典は、教育哲学会が編集する専門事典としては初の試みであり、全3部15章300項目余にわたって、現代の教育哲学研究の最先端の姿を提示しようとしている。

『教育哲学事典』は、全体として「教育」の立場を強く打ち出す編集となっている。しかし、教育論の現状を見るなら、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が目標に掲げられ、近年ではAIによる「学習者と学習の場のマッチング」が可能性として取り沙汰されるなど、ガート・ピースタの言う「教育の学習化」——「教育の言語を、教育を学習に関わる用語でのみ語るような言語で置き換える傾向」——が顕著である。こうした現状に鑑みるとき、「教育」を教育哲学の立場から学術的に構想することはどのようにして可能となるのだろうか(あるいは、その不可能性を見つめるべきなのか)。

今年度の課題研究では、以上のような「「教育」をいかに構想するか」という問いをめぐる議論を深めたい。そのために3人の会員に登壇をお願いした。編集幹事として事典の項目選定に中心的な役割を果たした田中智志会員、編集委員として事典の編集に関わった岡部美香会員、そして編集作業からは距離をとって批評できる立場から三澤紘一郎会員、である。ただし、各報告においては、事典の編集過程やその成果を振り返るというより、それぞれの研究上の立場から上述の問いに直裁に切り込むような視点提供を期待したい。現実を動かす言葉を教育哲学は(いかに)構想するか(岡部会員)、自分に向けた証言としての教育哲学(田中会員)、分析的教育哲学の再評価と展望(三澤会員)が各報告の主要な論点となるはずである。

イースト1号館 E-A-105

RT 1 対話型政治教育の意義と課題～九州での実践を踏まえて～

企画者・司会者	河野 哲也 (立教大学)
話題提供者	大賀 哲 (九州大学)
	西山 溪 (開智国際大学)
	吉岡 剛彦 (佐賀大学)
	大山 貴稔 (九州工業大学)
	小川 泰治 (宇部工業高等専門学校)
	安本 志帆 (学校法人武末学園長丘幼稚園・中津北高校)

教育は、対話による万人に開かれた公的空間の形成に寄与する必要があるが、そうした空間の醸成に日本の初等中等教育が寄与することはあまりに少ない。特に、日本の教育において政治的過程を経験させる機会の少なさは、政治参加度の低さの大きな原因ともなっているはずである。政治的テーマについて対話し思考する力の育成は最重要の教育課題であるものの、学校現場では、政治性と党派性が混同され、それが政治的中立性の考えと組み合わせることで、政治的議論が忌避される傾向がある。この原因はどこにあり、どのようにそれを払拭できるだろうか。本ラウンド・テーブルでは、政治学者や法学者を交えた九州での「子どもの政治哲学」実践の成果や、ドキュメント映画『ぼくたちの哲学教室』（キアナン/マッグラ監督）に見られる政治教育としての哲学対話を地歩にして、とりわけ地方において対話型の政治教育を導入する意義とその課題について議論する。

イースト1号館 E-A-117

RT 2 技術革新が「教養」を変える／「教養」が技術革新を変える

企画者・司会者	松浦 良充 (慶應義塾大学)
話題提供者	江口 潔 (九州大学)
	間篠 剛留 (日本大学)
	松浦 良充 (慶應義塾大学)

情報通信やデジタル・トランスフォーメーションの加速化、AIによる膨大なデータ学習・分析によるその成果の活用をはじめとして、「知」をめぐる技術革新が急激に進展している。こうした技術革新は、知識生成のプロセスやその正当化の根拠を大きく変貌させ、知識の習得や学習のあり方に根源的な再考を迫っている。また仮想現実、拡張現実、複合現実などの技術は、知識習得や学習の基盤をなす「経験」の意味も変えようとしている。こうした技術革新は、これからの「教養」

(liberal learning) 概念をどのように変えていくのか。逆にこうした技術革新に促進的／対抗的インパクトを与えるような「教養」概念をどのように構成していけばよいのか。職業準備や技能形成も含めた論点から考えたい。本ラウンドテーブルは、公益財団法人カシオ科学振興財団研究協賛事業「「データ駆動型社会」における職業教育と教養形成の再構築」プロジェクト、および月刊誌『教職研修』（教育開発研究所）における連載企画「データ駆動型社会における「人間」と「教育」」の一環として企画される。

イースト1号館 E-A-118

RT 3 教育における政治的主体の再考 ―L. アルチュセール思想の再検討を通じて―

企画者	須川 公央 (白梅学園大学)
司会者	村松 灯 (帝京大学)
話題提供者	野見 収 (沖縄国際大学)
指定討論者	小玉 重夫 (東京大学)
指定討論者	須川 公央 (白梅学園大学)

近年、シティズンシップ教育や主権者教育などを始めとする政治的行為主体の育成と関わって、学校をエージェンシー（行為主体性）の育成および、彼らがアセンブリ（集合）する場として再構築しようとする議論が展開されつつある

そこで本企画では、学校を支配的イデオロギーの浸潤の場として告発したL. アルチュセールの「国家のイデオロギー諸装置」論を再検討する。従来、機能主義的に理解されてきたその議論はしかし、アルチュセール思想の全体から捉え直してみれば、支配のもとで支配から逃れる独自の科学的・政治的主体形成論に開かれていることがわかる。本企画ではこの検討を通じて、上記、学校の再構築をめぐる議論の進展を目指すことにしたい。なお、本企画における提案は、野見収『断絶としての教育―アルチュセールにおける革命への問い』（東京大学出版会 2023年）を土台とするものである。参加者の皆様には、事前にお目通し頂ければ幸いである。

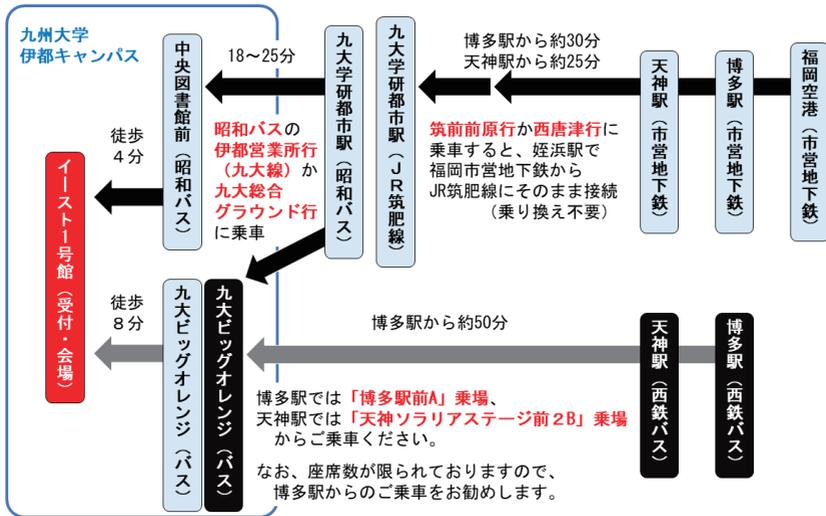
イースト1号館 E-B-101

RT 4 「知的徳」と教育をめぐる現代的展開

企画者・司会者	三澤 紘一郎 (群馬大学)
話題提供者	佐藤 邦政 (茨城大学)
	土屋 陽介 (開智国際大学)

現代徳理論の展開の影響は、教育哲学領域にも及んでいる。しかしそこには、未検討の課題やテーマも多い。例えば、徳倫理学や「倫理的な徳」に比べて、徳認識論や「知的な徳」は理解が難しいこと、広く議論されているケアの倫理に対し、日本では徳倫理学でさえ十分な注意を集めてこなかったこと、徳理論の展開においては女性研究者たちの活躍が目立っているにもかかわらず、教育哲学に同じ状況は見られないこと、などである。そこで本ラウンドテーブルでは、ミランダ・フリッカーの『認識的不正義』の翻訳を先だって出版され、教育認識論を捉えなおす試みをされている佐藤邦政氏と、「「考える人を育てる教育」はどのようなものであってはならないか：知的徳の教育の観点から」（2021）の著者で、子どもの哲学の理論と実践を先導されてきた土屋陽介氏をお招きして、徳をめぐる議論が教育哲学研究の蓄積とどのように関連し、何を付け加え得るかを明るみに出したい。

九州大学伊都キャンパスへの交通アクセス



福岡空港から伊都キャンパスへ（地下鉄経由）

福岡空港到着後は、空港の地下1階から福岡市営地下鉄に乗り可能です。「空港線」で、「筑前前原」行か「西唐津」行の電車にご乗車ください。

博多駅・天神駅から伊都キャンパスへ（地下鉄経由）

福岡市営地下鉄「博多」駅および「天神」駅からは「七隈線」ではなく「空港線」で、「筑前前原」行か「西唐津」行の電車にご乗車ください。

博多駅・天神駅から伊都キャンパスへ（西鉄バス経由）

博多駅前では「博多駅前A」乗場から、天神駅前では「天神ソラリアステージ前 2B」乗場から、「九大総合グラウンド」行にご乗車ください。

伊都キャンパス到着後、受付へ

昭和バスあるいは西鉄バスにご乗車後は、「九大ビッグオレンジ」か「九大中央図書館」でご降車ください。降車後、会場までは徒歩で4～8分程度です。



〔教育哲学会第 66 回大会 準備委員会〕

委員長	藤田 雄飛	(九州大学)
事務局長	鈴木 篤	(九州大学)
準備委員	江口 潔	(九州大学)
	岡野 亜希子	(近畿大学)
	瀬平劉 アントン	(九州大学)
	塚野 慧星	(九州大学)
	船原 将太	(精華女子短期大学)
	宮川 幸奈	(熊本学園大学)
	山岸 賢一郎	(福岡大学)

教育哲学会 第66回大会

2023年10月7日(土)・8日(日)

九州大学伊都キャンパス(イーストゾーン)

